

焼山北面台地山スキー報告

【山城】新潟県糸魚川・焼山

【日程と天気】2015年4月26日（日）

【メンバー】CL 菊池・鶴田・住田・池田・庭田・薄井・会員外（伊藤・中田）

【行程】笹倉温泉（450m）6：00－9：05 アマナ平（1000m）－焼山北面台地（1200m）
－12：35 標高 1750m 12：50－滑走－アマナ平－15：30 笹倉温泉



・日本離れした雄大な焼山北面台地は鶴田さんの長年憧れの BC エリアであった。

小生は 2008 年の GW、笹倉温泉から火打山に登り上げ、高谷池ヒュッテに合流していた四国の岡田さんの案内で、影火打から焼山北面台地を經由して笹倉温泉に下った経験がある。メンバーの高齢化にともない、火打から滑り込むには体力と気力がついていけない。

この数年、パウダーの時期が終わるころ、鶴田さんは焼山北面台地への切々な思いを語り、同行の士を勧誘していたが実現できなかった。焼山の頂上にできるだけ近づくことを考えると、日帰りでは難しく、標高 1000m ほどのアマナ平でテント泊をして翌日、軽身で焼山ピストンとすることがベターであるが、テント泊のための重荷を担ぎ上げることもかなり大変であると考え、気乗りしなかった。

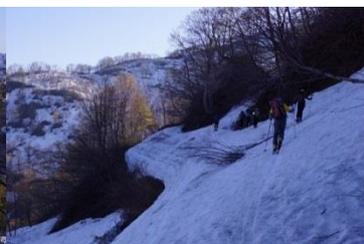
信濃町在住 4 年間で 3 回、焼山北面台地の展望を楽しんだ。4 月にシャルマンスキー場から放山・空沢山に 2 回ツアーした時、また今年の 3 月初旬、焼山温泉から新田山に sTs メンバーで上越市在住の中田さんに案内していただいた時である。まさに「日本離れした雄

大な景色」に圧倒され、鶴田さんの願いを少しでも叶えてあげたいと考え、今回の計画が実現された。

・笹倉温泉からアマナ平に向かう林道の直前にキャンプ場があり、GW 頃には利用できるが、今回は笹倉温泉の先はまだ残雪が多く除雪されておらず、前夜泊のテント場を探す羽目となった。旧焼山スキー場を進む道路が除雪されており、その除雪終了地点で、何とか2張りのスペースを確保できた。

・当日の早朝、笹倉温泉での登山者用の駐車スペースは温泉のすぐ傍にあるがぬかるんでいたため、その道路脇に停め 6:00 に出発した。すぐにシール登高を開始したが、キャンプ場に隣接した橋の手前で板を外して渡ると、いよいよつづら折りの登山道であり、ここから全ルートシール登高可能であった。

・つづら折りの林道は徐々に急斜面をトラバースしながら進むが、硬い雪面・狭いトレース、滑落の危険性に不安を抱きながら、しばらくは緊張を強いられる。その後はほぼ林道通りのトレースを辿り、やや複雑な地形であるが先行トレースを追



い、緩やかに標高を上げると出発して約 3 時間で標高 1000 mほどのアマナ平に到着した。ここをベースにしているテントは一張、そこから標高差約 200m の中斜面を左前方にシール登高、一部硬く急な雪面に、踏ん張りきれず転倒したメンバーも見られたが、無難に標高 1200m の焼山北面台地の下端に達した。



・夢にまで見た憧れの北面台地、豪快な火打山・焼山の雄姿を目の当たりにし、広大でまさに日本離れした「スンバラシイ」景色に一同度胆を抜かれた。気温上昇による暑さも加わりヒートアップ、クールダウンを兼ねて、行動食摂取と撮影のため小休憩を取った。



・当初は悪くとも標高 2000m 位には達したかったが、標高 1200m ですでに 4 時間を要し



ていたため、12時半を登りの最終時間と決め頑張った。影火打からの滑走ラインを観察したり、50周年記念のシャツでの記念撮影など、年寄組は疲労困憊しないようにゆっくり楽しみながら健脚組を追った。ガイド役の中田さん、住田さん、女性二人はまだまだ行けそうであったが、ダケカンバの疎林上部、標高1700mくらいで時間切れとなり滑走開始ポイントとした。笹倉温泉から標高差1250m、休憩を加え6時間半の登りであった。

・標高2400mの焼山は山スキーの時期に登頂するのは、体力的にも、難易度からみても極

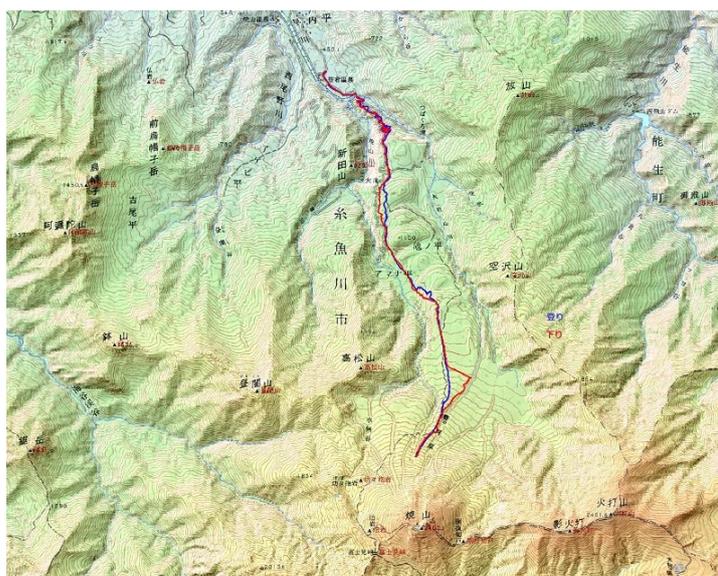


めて大変である。標高1700mでは物足りない感じがするが、好天のもと、このグレートビューを眺められただけでも一同大満足であった。滑走は、やや縦溝が気になったが、中斜面・

緩斜面主体の上質ザラメ斜面に、思い思いのシュプールを描いてゆっくり下った。アマナ平に達すると、ブナの新緑と残雪のコントラストが素晴らしく、行く手に鉾ヶ岳と権現岳



の雄姿を望みながらの終盤戦である。休憩を取り、この素晴らしい景色を楽しみ、最後の滑りを楽しむつもりであったが、なんと板の裏に黒いべったりとした汚れがこびりつき、ワックスを塗っても、らちがあかない。この時期各地で観察された現象で、どうやらブナの芽吹きに関連した樹脂とのことであった。



・老体に鞭うち、帰路も林道のトラバースを緊張しながらなんとか通過、長くて楽しいツアーは無事終了した。笹倉温泉で余韻を楽しみながら汗を流し、帰路に就いた。